

令和3年度第1回千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会議事録（書面開催）

1 日時 令和3年9月2日（木）～ 令和3年12月8日（水）

2 出席者

【委員】 岡本（武）委員、亀井委員、川畑委員、齋藤（一）委員、齋藤（博）委員、住吉委員、高野委員、高山委員、武井委員、竹川副会長、鳥越委員、松崎委員、森元委員、山口委員、山下会長

【臨時委員】 岡本（博）委員、鈴木委員、津田委員、長岡委員、原田委員

※ 委員20人のうち回答20人

【事務局】 健康福祉部：富田部長

地域福祉課：和田課長、小林課長補佐、佐藤主査

市民自治推進課：平野課長

保護課：鳩川課長

地域包括ケア推進課：前嶋課長

健康推進課：松本課長

高齢福祉課：清田課長

各区保健福祉センター

中央区：根岸所長、花見川区：市原所長、稲毛区：鈴木所長

若葉区：前嶋所長、緑区：緑川所長、美浜区：大塚所長

千葉市社会福祉協議会：地域福祉総務課 山内担当次長

：地域福祉ボランティアセンター 森所長

各区事務所 中央区：吉野所長、花見川区：猪野所長、稲毛区：中山所長

若葉区：吉田所長、緑区：石毛所長、美浜区：金澤所長

3 報告事項

(1) 各区支え合いのまち推進計画の推進状況について

(2) 地域福祉に関する千葉市WEBアンケート調査結果について

4 議題

(1) 支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の推進状況について

(2) 支え合いのまち千葉 推進計画（第5期千葉市地域福祉計画）の素案について

5 議事の概要

(1) 支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の推進状況について
事務局より資料送付し、書面にて質疑応答を行い、承認を得た。

(2) 支え合いのまち千葉 推進計画（第5期千葉市地域福祉計画）の素案について、事務局より資料送付し、書面にて質疑応答を行い、承認を得た。

6 審議経過

(1) 報告事項、議題について意見聴取

	報告事項（1）各区支え合いのまち推進計画の推進状況について
	報告事項（1）についての質疑応答
岡本（博）委員	各区はそれなりに企画し設定していると思いました。緑区も、高齢障害支援課、社協、委員と話し合い、何回も協議を重ねて作成しました。計画後の推進については高齢支援班が進めており、意見を伺い修正しているため、問題はないと思っています。
地域福祉課長	時間が限られた中、原案の作成にご尽力いただき、感謝申し上げます。
津田委員	1 各区の総合評価を見ると、S、A評価の割合が、中央区 93%、花見川区 72%、稲毛区 99%、若葉区 35%、緑区 67%、美浜区 71%となっています。それぞれの区で各項目の実績内容から見ると、評価のかなり甘いところ、厳しいところがあるように思えます(これは仕方ないことと思えますが)。評価に対し、総合的観点から、どのような施策、方策が奏功し、またどのような事が不足していた等のことを記載できるような欄を設けてはと思います。この欄の情報は地区部会運営等に大いに参考になると思います。 2 コロナ禍の対応については大いに参考になる事例が多いので、これらの情報を共有出来ることが必要です。 3 各区共通の担い手不足の課題については、別途に取り上げ、共同的な検討の必要性を感じます。
地域福祉課長	区計画の評価の記載欄につきましては、評価がその後の活動に有効に活用できるよう各区推進協の委員の皆様、事務局と協議し、より良い形を検討して参ります。 また、コロナ禍での対応につきましては、各団体様が工夫されながら活動されている事例などを収集し、可能な限り周知・共有させていただきたいと考えております。 さらに、担い手不足の課題につきましては、地域福祉活動の継続における根幹的な課題であると認識しております。また、一朝一夕には解決することが困難であると考えておりますので、引き続き事例の収集に努めるとともに、委員の皆様、各団体の皆様のお知恵をいただきながら、検討して参りたいと考えております。
竹川副会長	計画の最終年度である令和2年度は、新型コロナによる影響が全ての区にもあったものと考えられますが、若葉区については、目標の達成状況で(A)以上の割合が35%と5割に届いていません。 若葉区には新型コロナによる影響の他に何か特有の問題があったのでしょうか。それとも取組成果に対する評価が、区によって温度差があるのでしょうか。 今後の課題については、各区とも「担い手の確保」や「コロナ禍における活動継続

地域福祉課長	<p>(活動の見直し)」があがっていますが、地域性のある課題として、美浜区では「新旧住民の融合」や「EVのない中層集合住宅における外出困難(引きこもり)」が取り上げられており、他区においても該当する地域があるものと思われました。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市内の地域福祉活動も大きな影響を受けましたので、各区計画の達成状況については、コロナの影響を考慮せずに評価していただくよう各区推進協議会に依頼したところです。若葉区においては、コロナによる活動休止の状況をそのまま実施できなかったものとして評価したものでございます。</p> <p>また、地域性のある課題につきましては、各区から挙げられたものが本分科会に集約いたしますので、本分科会での議論を通して、各区と情報共有を図って参ります。</p>
住吉委員	<p>各区とも地域の特徴を踏まえて推進計画に沿い実践されておられます。</p> <p>新型コロナ感染拡大に伴い、基本的な感染対策を行いながら活動の継続と拡充を進められたこと、否応無く「新しい生活様式」に対応し、安心、安全な方策、模索の検討をしながらの活動は、ほとんどの事例で伺えます。例えば、広報ミニ通信で様々な福祉情報を補う会議、オンライン、Zoom・食事サービス「テイクアウト方式」を開始等々。並大抵ではなかったと思います。</p>
地域福祉課長	<p>団体様がコロナ禍で大変なご苦勞をされながらなんとか活動を再開されているというご意見をいただきありがとうございます。市としましても、各団体様が工夫されながら活動されている事例などを収集し、周知・共有させていただきたいと考えております。</p>
原田委員	<p>花見川区について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化人口減少が止まらない地区の活動を今後どうするかが最大の課題（下表参照） 2 4期中に活動の他地区への広がりが全く見られません。（固定化） <p>中間点での変更、見直しができる方法を導入すべきです。</p> <p>このデータをご覧ください。</p> <p>☆ 花見川区北部の少子高齢化人口減少の状況</p> <p>花見川区人口減少ワースト5は次の通り。③を除いて毎年1%～3%減少が続いており、下げ止まらず危機的状況にあり、いずれも年少率と高齢化率（75歳以上）の差が大きいのが特徴。今後10年間は人口減少が続くことを示しています。</p> <p>H18-9-30～R3-6-30（14年9ヶ月間の推移）</p> <p>H18年4月 第1期千葉市地域福祉計画開始年</p> <p>①花見川第2地区部会(花見川団地(賃貸)、天戸町で構成) UR 賃貸</p> <p>②こてはし台地区部会（こてはし台1丁目～6丁目で構成 戸建て</p>

- ③さつきが丘・宮野木台地区部会 UR 賃貸
 ④こてはし台中学校区地区部会（横戸台、内山町、字那谷町、大日町、み春野、農村地帯、住宅地で構成）
 ⑤花見川地区部会(花見川団地(分譲)、柏井町、柏井 1&4 丁目、横戸町、花島町で構成)
 (注記) 年少率、高齢化率（65 歳以上、75 歳以上）、世帯人数は R3-6-30 現在

地区部会名	人口減少率 (%)	年少率 (%)	高齢化率 (%) 65歳以上	高齢化率 (%) 75歳以上	対前年同月比 人口増減 (%)	世帯人数
①	28.8	6.1	42.3	24.7	▼3.1	1.77
②	15.7	8.0	47.8	33.2	▼1.7	2.08
③	14.2	9.9	35.1	19.0	△2.7	2.00
④	13.7	7.1	26.2	11.7	▼1.7	2.36
⑤	12.8	7.4	40.1	23.0	▼1.1	1.95
花見川区	2.3	10.7	27.9	14.8	△0.134	2.04
千葉市	—	11.7	26.2	13.6	△0.426	2.06
日本全国			29.1		R3-9-20現在	

地域福祉課長

詳細なデータに基づく丁寧な分析をもとに、地域活動の根本にかかわるご意見をお寄せくださりありがとうございます。

少子高齢化や人口減少に伴う地区活動を今後どのように展開すべきか、活動の他の地区へどのように展開すべきかについては、花見川区に限った課題ではなく本市全般に当てはまるものと考えており、担い手の確保同様、大変難しい課題であると認識しております。各地区の中でできることをできる範囲で継続していただくことの支援を行うとともに、委員の皆様、各団体の皆様のお知恵をいただきながら、検討して参りたいと考えております。

また、次期5期計画においては中間年度で計画の見直しを予定しております。

川畑委員

それぞれの地域の特色の中で、さまざまな活動努力をされていることが読みとれ、敬服します。

地域福祉課長

ご意見をいただき、ありがとうございます。

松崎委員

地域の取り組み、コロナ禍の生活のなかで地域活動が停止、停滞せざるをえなかったなかで、感染予防を専門家に学びながらも活動を継続している地域があり、地域共生社会に向けた住民の熱意と知恵を感じました。「コロナ禍における好事例等」の記載は大変参考になります。

各区の地区部会の進捗状況の報告は地域差がありますが、全体として各地域活動の状況がわかりやすい報告のまとめ方となっています。

地域福祉課長	<p>ご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>報告事項（２）地域福祉に関する千葉市WEBアンケート調査結果について</p> <p>報告事項（２）についての質疑応答</p>
竹川副会長	<p>問３「これまで地域活動に参加したことがあるか」に対し、45%の方が「機会があったら参加したい」と回答しているものの、ネガティブな見方をすると、問４で「地域活動に参加したきっかけは」に対し、「地域団体の役職等になった」が23%、「地域活動をしている方からの声掛け」が21%と、「断れない、又は断りにくいので仕方なく」といった理由で地域活動に参加した方が半数を占めているのが実態ではないでしょうか。</p>
地域福祉課長	<p>ご指摘のとおり、断れない、又は断りにくいので仕方なく、という側面は確かにあるかと存じますが、地域活動に参加されたという機会を捉え、継続的に参加していただけるよう支援して参りますとともに、「機会があったら参加したい」というポジティブなご意見を、実際の活動に結びつけることができるような方策を検討して参ります。</p>
住吉委員	<p>「向こう三軒両隣」「遠い親類より近くの他人」</p> <p>問１ いざという時手助けがほしい、安心して暮らすことができます。</p> <p>問３ 地域活動に参加したことがあるか、機会があったら参加したい。74%</p> <p>問６． ７ 参加するキッカケづくりが必要・周知、啓発活動・情報発信の強化・紙媒体活用・広報活動チラシ・オンラインの活用・声掛け・人とのつながりの中で声掛けが一番大切だと思います。活動内容の緩和、工夫することにより参加しやすくなります。回答者の年齢10代～70代以上・40代～50代が50%占めていたので、頼もしく思えました。</p>
地域福祉課長	<p>ご近所付き合いが減少し、地域内での人間関係が希薄になっている現状にあっては、声掛けをきっかけとした人とのつながりが大変重要であると考えております。地域活動に参加したいという前向きなご意見を、実際の活動に結びつけることができるような方策を検討して参ります。</p>
津田委員	<p>自分の住んでいる地域で行われている地域活動を知らない人(48%)が多く、地元での広報活動の徹底、および広報内容(自分でも参加・支援がしたい、自分でも参加・支援が出来ると思わせる内容)の充実が必要だと感じました。</p>

地域福祉課長	<p>本市としましては、市域全体の地域福祉活動を周知し、より関心を持っていただけるよう、YouTubeによる動画配信や、市政だより特集号の活用なども行って参りましたが、引き続き、あんしんケアセンターや生活支援コーディネーターの活動等を通じて、地域の中での広報活動の充実に向けた支援を行って参ります。</p>
川畑委員	<p>問1 日常生活が不自由となったときに、手助けしてほしいこととして、急病や災害時などの手助けが52%、見守りや安否確認に45%の方が回答しています。一人暮らしの者にアルソック機械取付けを進めるべきではないでしょうか。緊急時に、鍵がないと入れませんが、契約をしていれば、アルソックが鍵を持っています。</p>
高齢福祉課長	<p>ひとり暮らしの65歳以上の方等を対象として急病等の緊急時に迅速かつ適切な対応が図られるように、自宅に緊急通報装置（機器本体・ペンダント型発信器・安否確認センサー・火災センサー）を設置する高齢者緊急通報システム事業を行っています。この事業は、緊急ボタンを押した場合やセンサーが異常を感知した場合、予め鍵をお預かりした警備会社のガードマンが自宅に駆けつけて安否確認し、必要に応じて警察・消防に通報いたします（申請は各区高齢障害支援課で受け付けております）。</p>
川畑委員	<p>問4 社協地区部会の自治会代表役員になった人を取り込むことがとても重要です。</p>
地域福祉課長	<p>ご意見のとおり、地区部会活動の推進において、地区部会に参画いただいている自治会の方々とさらなる連携が重要であり、市としても市社協とともに、引き続き支援して参ります。</p>
松崎委員	<p>調査の意義はなかったように思います。WEBでのアンケート手法、回答者の年齢構成、職業などみると予測できる回答だと思えます。</p> <p>各種計画が実施している調査を参考にすることは、地域生活課題を把握するうえで必要かと思えます。また、現役の世代が地域共生社会へのかかわりがもてるためには、有給休暇のなかにボランティア活動がとれる社会となることも、必要ではないでしょうか。</p>
地域福祉課長	<p>ご意見ありがとうございます。この度実施しましたWEBアンケートにつきましては、実施方法や期間、設問数や質問内容などについて、本市WEBアンケート制度の一定の制約が課された中で、地域福祉計画単独ではなく福祉以外の他の分野に係る内容とともに実施させていただいたものであり、地域福祉計画におけるアンケート内容としては物足りない部分があったかもしれません。今後も、限られた資源の中で最大限の効果を発揮することができるような方策を検討して参ります。</p> <p>また、有給休暇の中にボランティア活動が取れる社会の実現に向けては、ボランテ</p>

	<p>ィア活動が、市民活動はもとより企業活動の中においてもしっかり根付いていることが前提になるかと思しますので、引き続き関係団体も含め、全庁的に検討して参りたいと考えております。</p> <p>議題（１）支え合いのまち千葉 推進計画（第４期千葉市地域福祉計画）の推進状況について</p> <p>議題（１）についての質疑応答</p>
竹川副会長	<p>重点施策であるコミュニティソーシャルワーク機能の強化の目指すべき姿は、コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーターのほか、民生委員、あんしんケアセンター、生活自立・仕事相談センターなど地域における様々な支援機関が連携し、地域における複雑・複合化した個別課題や地域全体の生活課題を早期発見し、解決に導く体制を構築することです。</p> <p>令和２年度においては、新型コロナのため、コミュニティソーシャルワーカー等の活動にも影響があったほか、他機関連携や地域の担い手の育成等にも影響があり、目標通りには進められなかったものと考えられます。</p> <p>今後は、新たな生活様式を踏まえた各活動の見直しが必要となりますが、コミュニティソーシャルワーク機能の強化の切り札となるのが、令和３年４月に施行された重層的支援体制整備事業であり、次期計画において市の取組みとして欠かせない事業の一つと考えます。</p>
地域福祉課長	<p>本市としても、コミュニティソーシャルワーク機能の強化に向けた具体的な施策として、厚生労働省が令和３年４月に創設した重層的支援体制整備事業は大変注目しており、重層的支援体制整備事業に関することも含めまして、庁内で本市に適した包括的な相談支援体制のあり方についての検討を開始したところです。</p> <p>次期計画の中にも、「誰も置き去りにしない、断らない相談支援体制の構築」について盛り込んで参ります。</p>
住吉委員	<p>新型コロナウイルスはなかなか収束の気配が見られず、感染リスクに配慮しながら事業、施策は大変だった事と思います。評価を昨年度と比較すると定量評価は下がっております。定性評価の事業・施策については全体の５８％が概ね達成できております。取り組みの体制構築、きめ細かく努力された賜ものだと思います。活動自粛、中止により達成できなかった事業・施策は次期につなげて行く事が必要です。</p>
川畑委員	<p>コロナ禍で、活動が大幅に制限されているので、従来と同じ進め方は無理がありません。</p>

地域福祉課長	<p>活動できる環境の条件、資材の検討などをもっと掘り下げるべきです。</p> <p>ご意見のとおり、環境が刻々と変化する大変難しい状況ですが、今までのコロナ禍の経験を踏まえ、ウィズコロナ、アフターコロナへの対応を検討し、次期計画の推進につなげて参ります。</p>
津田委員	<p>1 P3「地域福祉の担い手の育成・拡大」とありますが、各区の地区部会共通課題として、やはり「担い手不足」があげられています。市と各区(地区部会)でそれぞれ方策が異なると思いますが、議論し合えることがあるような気がします。</p> <p>2 P24「避難所運営委員会の設立促進及び活動支援」とあり、活動支援として、訓練や会議の経費補助とありますが、設立された運営委員会の毎年の活動実績の管理・指導はどこが行っているのでしょうか。</p>
地域福祉課長	<p>地域における活動の担い手の確保という点においては、市と各区（地区部会）が抱える課題は共通であると考えます。コミュニティソーシャルワーカー・生活支援コーディネーターの活動やボランティア研修等での取組みの成果を、地区部会活動へどのようにつないでいくかについて、地区部会の皆様と意見交換を実施することは有意義であると考えますので、その方策について関係部署と検討して参ります。</p> <p>また、避難所運営委員会の活動実績については、防災対策課が活動状況調査を実施し、その結果を各区役所地域振興課と共有しております。指導については、各区役所地域振興課において、毎年避難所運営委員会向けの研修会を年1回以上開催するとともに、必要に応じて、避難所運営委員会の会議や訓練にも出席させていただいております。</p>
原田委員	<p>市の取り組み(公助の取り組み)</p> <p>それぞれの担当課で自己評価していますが、手間がかかりますが第三者の評価が必要ではないでしょうか。より客観的な評価が必要です。</p> <p>福祉活動の現場に顔を出した方はほとんどいない様に思います。一般住民には活動状況が全く見えません。関係者とは連携していると思いますが。</p>
地域福祉課長	<p>第4期市計画では、市の取組について各担当課が自己評価したものを、本分科会の委員の皆様に評価していただいているところです。</p> <p>ご意見のとおり、評価をより客観的なものとするためには、さらなる評価機関を設置することも考えられますが、費用対効果や他都市の状況などを参考に研究して参ります。</p> <p>また、ご指摘のように、各担当課の職員が福祉活動の現場に顔を出させていただく機会は、あまり多くはないかもしれませんが、現場を知ることや声を拾うことは事業の推進において重要なこととございますので、可能な限り実態の把握に努めて参りました。</p>

住吉委員	<p>いと考えております。</p> <p>承認者数：20人中20人</p> <p>議題（2）支え合いのまち千葉 推進計画（第5期千葉市地域福祉計画）の素案について</p> <p>議題（2）についての質疑応答</p> <p>基本理念設定は、千葉市基本計画の政策の柱の一つとして、これで良いと思えます。すべての人々が地域で安心して暮らし、生きがいをともに創っていく、地域の多様な世代や分野を超えてつながり、多様性が尊重され包摂され、住民同士互いに出来る事で支え合い、伝え、担い手を育てて行く。コロナ禍でのピンチをチャンスととらえ、プラス思考で「新しい生活様式」を取り入れその中の一つオンラインの活用で新しい支え合いネットワークをつくって行く。対面は基本だと思っていますが。</p>
地域福祉課長	<p>コロナ禍での経験により、対面活動のあり方や有難みなどを再認識することができたのではないかと考えております。5期計画では、感染防止対策を講じることを原則としつつ、対面での支え合いネットワークを可能な範囲で活用するとともに、オンラインの活用などの新しい手法も取り入れるなど、多様な活動のあり方を提示して参りたいと考えております。</p>
長岡委員	<p>社会福祉協議会地区部会と自治会の存在・役割について</p> <p>支え合いのまち千葉推進計画の中で、社会福祉協議会地区部会の役割と活動が位置付けられています。地区部会の設置、行事や活動には自治会が大きな役割を果たしています。しかし、地区部会の設置要綱には、自治会の位置づけが曖昧です。地区部会設置要綱に自治会を主要な団体として位置付けることが必要ではないでしょうか。</p>
地域福祉課長	<p>地区部会は、地域の実情に応じて構成団体は様々ですが、多くの地区部会において、町内自治会は大きな役割を果たしていると認識しております。</p> <p>なお、いただいたご意見は地区部会設置規程を所管する市社会福祉協議会と共有して参ります。</p>
長岡委員	<p>地区部会の所在と活動拠点について</p> <p>地区部会の活動対象は地域の子どもから高齢者の全般に渡ります。それらの要求、課題に対応するには、日常的な取組みが求められます。それには日常的に使用できる活</p>

動拠点を必要とします。しかし、現在多くの地区部会は、自治会に依拠、地区部長宅となっているのが実態で、活動拠点が保障されていません。支え合いのまち千葉推進計画の中に、地区部会の活動拠点の必要性を入れて下さい。

また、社会福祉協議会に対しては、地区部会予算に事務所費を予算化することを求めて下さい。

地域福祉課長

地域福祉、地域づくりを推進するために、活動拠点の確保は重要であると考えており、5期計画においても施策に盛り込む予定であります。

なお、予算化に関するご意見は市社会福祉協議会と共有して参ります。

長岡委員

活動拠点の確保について

支え合いのまち千葉推進計画を地域で促進するには、地域の諸団体が集い、意見や対応方法を出し合い、協力協働して取組むことが求められます。そのための活動拠点を公共施設として確保、整備することが必要です。

地域福祉課長

地域の諸団体が集い、協力して取り組むことは重要であると認識しております。今後も活動の場として、ご利用可能な公共施設や協力いただける社会福祉法人や企業、団体等の情報の収集に努め、提供させていただきます。

原田委員

第5期花見川区支え合いのまち推進計画（案）

このデータをご覧ください。

1 区の現状 H18-9-30 と直近(R3-6-30)の地区部会別の人口構成を入れます。

これにより H18 と R3 の期間（14年9ヶ月間）の人口動向の比較が可能です。

☆地区部会の構成 13地区部会、1地区部会空白地区、計14地区

同時に比較し易い様に花見川区、千葉市、日本全国の人口構成を入れます。

(参考例)☆花見川第2地区部会人口構成表 R3-6-30 現在 R3年9月9日

No	地域名	世帯数	総人口	年少人口 0~14歳	生産年齢人口 15~64歳	65歳以上 高齢者	75歳以上 高齢者	年少率 0~14歳	高齢化率 65歳以上	高齢化率 75歳以上	総人口/ 世帯数
1	花見川団地 (賃貸)	5,224	9,001	532	4,595	3,874	2,300	5.9%	43.0%	25.6%	1.72
2	天戸町	856	1,780	125	969	686	367	7.0%	38.5%	20.6%	2.08
	合計	6,080	10,781	657	5,564	4,560	2,663	6.1%	42.3%	24.7%	1.77
	花見川区計	86,595	176,960	18,875	108,796	49,289	26,208	10.7%	27.9%	14.8%	2.04
	千葉市計	473,833	976,456	113,958	606,950	255,548	132,848	11.7%	26.2%	13.6%	2.06
	日本全国								29.1%		

(注記)

☆世帯人数=総人口/世帯数 独居高齢者、若年層単身者の状況を把握できます。

☆年少人口（年少率）と75歳以上高齢者数（75歳以上高齢化率）の比較10年以内の人口増減予測が可能です。

☆区、市、全国のデータを入れることにより比較し、見易くなり、冒頭の1地区部会のみ入れます。

花見川区人口構成表 H18-9-30 現在

R3 年 9 月 14 日

No	地域名	世帯数	総人口	年少人口 0～14歳	生産年齢人口 15～64歳	65歳以上	75歳以上	年少率 0～14歳	高齢化率 65歳以上	高齢化率 75歳以上	総人口/ 世帯数
	花見川区計	76.104	181.133	24.640	125.180	31.313	-	13.6%	17.3%	-	2.38

(注記)本表は花見川区人口構成表。各地区部会毎に左右対比できるようにします。
区の原案では項目は少ないですが、すでに実施しています。

- 2 区の課題
- 3 基本目標（基本理念）
- 4 基本方針(仕組み)

花見川保健福祉センター
所長

第1回花見川区支え合いのまち推進協議会での各委員からのご意見や今回の原田委員からのご意見も踏まえ、10月20日開催予定の第2回同推進協議会で第5期花見川区地域福祉計画の原案の修正案を提出させていただきます。

川畑委員

文章からウェブへ

- 1 大量の紙文書は段階的にやめにして、インターネットに移行すべきです。キーワード、比較(データ、地域の報告など)できるような閲覧形式を作るべきです。
- 2 報告書もネットで、報告できるようにデジタル化すべきです。

地域福祉課長

当分科会の会議資料につきましては、過去に開催した分は千葉市ホームページに公開させていただいているところですが、当分科会の会議資料は各回ともに資料数が多く、かつ、個々の資料のページ数も多い傾向にありますので、会議の開催から議事録が完成するまでは、委員の皆様には紙で資料を配布させていただいております。

会議資料のデータ化については、資料の簡素化や省ページ化、会議当日の会場内における資料の表示環境の整備・調整、委員の皆様の負担の軽減など、調整すべき課題が多数ございますので、庁内の他の会議の事例等を参考に研究して参ります。

なお、会議資料の事前送付に際して、メール送信を希望される方への対応については、今後検討して参ります。

松崎委員

第5期は令和3年4月の社会福祉法改正の規定を踏まえたフレームワークとなっています。丁寧な社会福祉法改正までの背景と経緯、このたびの改正で千葉市の各生活圏域のあんしんケアセンターが直面している「複合的な地域生活課題」の解決への道筋と財政的支援を確保されたプラットフォームができるのではないのでしょうか。

地域福祉課長

ご指摘のとおり、本年4月の社会福祉法の改正は、5期計画の基本フレームに大き

松崎委員	<p>な影響を及ぼすものでございます。とりわけ、重層的支援体制整備事業は大変注目しており、重層的支援体制整備事業に関することも含めまして、庁内で本市に適した包括的な相談支援体制のあり方についての検討を開始したところです。</p> <p>5期計画の中にも、「誰も置き去りにしない、断らない相談支援体制の構築」について盛り込むとともに、今後、あんしんケアセンターも含め、外部機関の関係者とも意見交換を行うこととしております。</p> <p>コロナ禍のなかで、生活安定層の人たちが一挙に生活崩壊していく様子を見せられてきました。自立へ向けての就労支援など寄り添い、伴走型の支援がこの地域福祉計画の中に入りました。「生活困窮者自立支援」が位置づけられて、6区に相談センターを配置することを、明記できるのでしょうか。「素案」6ページ「その他の計画」とはなにか、うかがいます。</p>
保護課長	<p>美浜区を除く5区に設置している生活自立・仕事相談センターは、6区に設置することを目指しておりますが、次期計画に明記できるかは、予算編成作業を踏まえて検討してまいります。</p>
地域福祉課長	<p>ご指摘いただきました「その他の計画」については、千葉県自殺対策計画、千葉県貧困対策アクションプラン、千葉県食育推進計画、千葉県DV防止・被害者支援基本計画、子どもの貧困対策推進計画、千葉県住生活基本計画など、地域の中に存在する諸課題への対応や対策をまとめた本市の個別部門計画が該当しますが、記載の都合上、「その他の計画」としてまとめさせていただいております。</p>
松崎委員	<p>「いきづらさを抱えている人への支援」このなかで自殺対策をいれてあります。「いのちの電話」の理事をしておりますので、こども・若者の自殺が多くなっていることもあり、ありがたいです。</p>
地域福祉課長	<p>こども・若者の自殺については大変憂慮すべきことであると認識しております。</p> <p>自殺に追い込まれるという危機は、生活困窮、過労、介護疲れ、育児の悩みなど、誰にでも起こり得る危機ですが、その人の個人的な問題として捉えられることも多く、十分に理解されていないのが実情です。そのため、身近にいるかもしれない自殺を考えている人の存在に気付き、声をかけることが、地域全体の共通認識となるよう、担当課と調整し、5期計画の中に盛り込んで参りたいと考えております。</p>
松崎委員	<p>各種統計データの掲載について、内容によって「男・女の差」がわかるほうが問題の本質が把握しやすいこともあります。トランスジェンダーの件で、公的統計では男・女の区別をつけないのでしょうか。「ひとり暮らし高齢者数」など。</p>

地域福祉課長	ご意見を踏まえ、男女の差に特徴のあるデータについては、多様性への配慮及び各個別部門計画との整合を図りながら、掲載を検討して参ります。
松崎委員	圏域の考え方。小中学校の統廃合、地域の人口変動、あんしんケアセンターの配置など2025年、2040年問題を踏まえて、社会福祉協議会の地区部会活動は問題ないのでしょうか。
地域福祉課長	5期計画では4期計画と同様に地区部会エリアを地域の取組みの圏域としております。しかしながら、ご指摘のとおりさらなる高齢化や人口減少、ニーズの変化などを踏まえますと、圏域の考え方については、関係機関、団体の状況も勘案しつつ、次期（6期）計画に向けて見直し等を検討する必要があると考えております。
松崎委員	地域福祉活動にとって、公民館は重要な活動の「場」であると思います。 「公民」の概念をもう一度確認し、地域福祉活動の場としてどのように活用されているか、また活用していくのか教えていただきたい。
地域福祉課長	公民館は、地域住民の「つどい・まなび・つなぐ」ための生涯学習の場として、地域住民に対し、講座・イベントなどの学習機会や、多様なサークル活動を通じたふれあいの機会を提供しております。このような活動の「場」に地域福祉活動の考え方を融合させることにより、多様な活動の担い手が出会い、学び合うプラットフォームを促進することで、双方の活動の活性化や発展につなげて参りたいと考えております。
松崎委員	「社会福祉法人の公益的な取組の促進」 社会福祉法人とは本来的に「地域の生活課題」に関心を寄せ地域福祉活動の有力なパートナーとなっていくべきです。どのような活動をしているのでしょうか。具体的に「見える化」をしていくべきかと思えます。
地域福祉課長	本市における社会福祉法人の公益的な取組としては、買物支援サービス、高齢者の交流拠点、高齢者サロンへの協力等による地域交流スペースの活用、食事の提供を含んだ学習支援、こども食堂などの取組事例があり、市社会福祉協議会では、こうした取組事例をまとめ、事例集として同会ホームページに掲載しております。 これらの取組みを更に推進するために、活動の見える化を図ることは重要であると考えますので、市社会福祉協議会と連携し、様々な機会を捉え、周知を図って参ります。
松崎委員	重層的支援体制整備事業について、千葉市はどのようにとりくむのでしょうか。国の予算次第なののでしょうか。第5期計画では年次計画として示していけるのでしょうか。担当課はどこでしょうか。

<p>地域福祉課長</p>	<p>本市における包括的な支援体制の構築は重要な課題と認識しており、地域福祉課が事務局を担い、重層的支援体制整備事業に関することも含めまして庁内でそのあり方についての検討を開始したところです。</p> <p>今後も庁内外の関係機関等との意見交換を行いながら検討を継続するとともに、5期計画の中にも、「誰も置き去りにしない、断らない相談支援体制の構築」について盛り込んで参ります。</p> <p>承認者数：20人中20人</p>
<p>山下会長</p>	<p>書面開催という方式の中で、忌憚ないご意見を頂戴しありがとうございました。対面による会議も重要ですが、こうした方式によって皆様のご意見一つひとつを頂戴し、事務局がおこたえするという試みもコロナの影響とはいえ充実したものとなりました。</p> <p>「誰もひとりぼっちにしない」「断らない相談」が可能となるような行政内の連携、あわせて、民間団体との協働による地域福祉の包括的な支援体制の構築は、地域共生社会の理念の実現に資するものと思います。</p> <p>今期の地域福祉計画では整理しませんでしたでしたが、次期に向けては、指定都市という意味で地域福祉支援計画の要素、そして、市として地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係の整理などさらに進めていかれることを期待します。</p> <p>～ 終了 ～</p>

(2) 議事録 送付・意見聴取（令和3年9月2日、令和3年11月29日）

(3) 議事録 議題1 承認者数：20人中20人

議題2 承認者数：20人中20人